



第 9 号

1990年 9 月

岡山県古代吉備文化財センター

▲西江遺跡（香西町）出土特殊器台文様

最近の発掘調査から

みそのお墳墓群 —御津郡御津町—

みそのお墳墓群は、御津郡御津町高津の丘陵上に所在し、当初はみそのお古墳群として4基の古墳が知られているにすぎませんでした。ところが、昨年度御津工業団地の造成工事に先立って、分布調査、一部発掘調査を実施したところ、

弥生時代から古墳時代の墳墓群が存在することがわかりました。墳墓群は標高85m～155mの丘陵上に長さ500m以上にわたり、約50基が隙間なく続いているものと推定されます。

今年度は4月10日から発掘調査を再開し、8



みそのお墳墓群全景

月末までに尾根先端から150mまでの部分の調査を終了しました。その結果、弥生時代後期前半の墳墓10基以上、後期後半の墳墓1基、古墳時代前期の墳墓3基などが見つかりました。これらは尾根を削ったり、土を盛ったりして作られた一辺10m以下の墳丘、あるいはテラスで、内部には複数の主体部（遺体を納める施設）をもっています。また、墳丘斜面には、葺石や貼石の一部が残っていました。

弥生時代後期前半の墳墓は尾根の頂部に位置し、木棺を納めたと考えられる長方形の墓穴が、3～10余基ずつを単位として、群を形成しています。これらのうち墳形の判るものはすべて方形、あるいは長方形で、四辺に石を繞らせているものもあります。しかし、大半は盛土が流失しており、墓穴だけ見つかる状態です。墓穴は長さ2.3～1m、幅0.8～0.4mの大きさのものがほとんどで、中から高杯や把手付きの壺などの土器が見つかります。これらの土器は、木棺を埋めた後に置かれたものが、木棺が腐った後



壺棺の出土状態

に落ち込んだものと考えられます。このほか、乳幼児の遺体を納めたと考えられる、土器の壺に高杯や鉢で蓋をしたものが10基以上見つっています。(写真)

弥生時代後期後半の墳墓は、尾根の西側斜面に一基見つかり、墳形は一辺約10mの方形で、主体部は3.4m×2.2mの大型のもの、3.0m×1.3mのものがあり、前者からは多量の土器が見つっています。

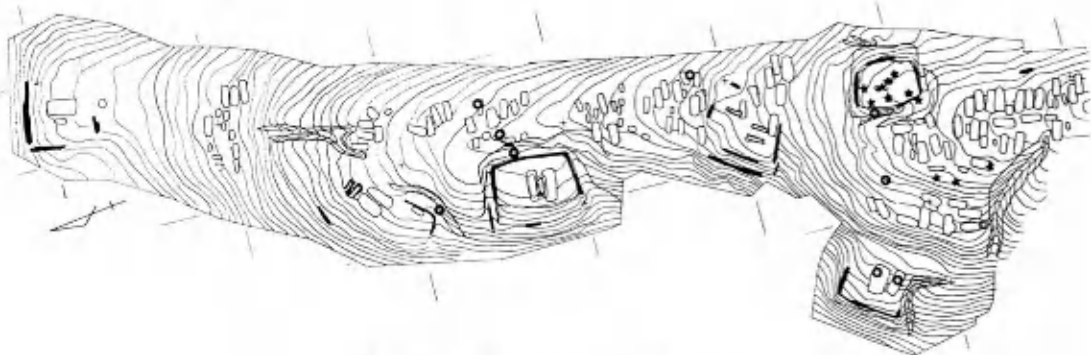
古墳時代前期の墳墓は3基とも尾根の西側斜面にあり、1基は墳形不明で、他は一辺約10mの方墳で、西半部が二段築成となっています。主体部は木棺、石棺が1～3基ずつあり、石棺の方が新しいと考えられます。木棺内部より剣、鉄などの鉄製品が数点出土しています。

調査は現在も進行しており、弥生時代後期後半の墳墓群が姿を現しつつあります。この時代の社会構造の変遷を考える上で、極めて重要な遺跡だといえるでしょう。

(椿 真治)



古墳の調査風景



調査終了部分平面図(約1000分の1)

浅川古墳群 3号墳

—岡山市浅川—

浅川古墳群は、岡山市東部で岡山県三大河川の一つ吉井川と、その西を流れる砂川とに挟まれた、大日幡山から北にのびる丘陵の先端近くに位置しています。平成2年7月・8月に一般国道2号改築（岡山バイパス）工事に伴い、2号墳・3号墳の発掘調査を行いました。このうち、3号墳は、新たに発見された古墳で、主体部がほぼ完存した状態で調査されました。この古墳からは、北へ600m程のところにある日本で最も古い時期の一つである浦間茶白山古墳をはじめ、岡山市の東北部（旧上道郡平島村）一帯を見わたすことができます。



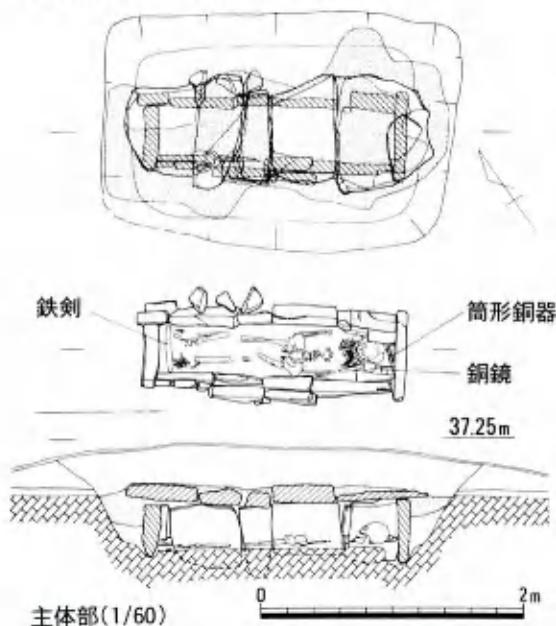
筒形銅器

銅鏡

古墳の盛土は、所在している丘陵が葡萄畑の開墾等により削平され、現状では南北6m・東西5m・高さ0.4m程の高まりが僅かに認められる。主体部は、盛土のほぼ中央に、長辺2.6m・短辺2mの長方形の土壇を掘り、その中に板状の石を長方形に組み合わせた箱式石棺が一基構築されています。箱式石棺の内部は、長辺1.78m・短辺0.38m・高さ0.35m程の大きさですが、石と石の継ぎ目を厚く粘土で覆い密封された状態でした。蓋石を開くと中から鮮やかな赤色に染まった頭骨をはじめほぼ完全な人骨が現れました。箱式石棺の内側も赤く塗られています。人骨は、頭位を南東側にして埋葬され、頭骨と小口側の側石との間に筒形銅器が、頭骨の左側に置かれている枕石に立て掛けるようにして銅鏡が、また、足先には小口側の側石に平行して鉄剣が副葬されていました。

筒形銅器は全長15.2cm・口径2.2cm・底径3.0cmを測り、中に約6.1cmの棒状の鉄片が1個あります。銅鏡は直径8.3cmを測る7花文の仿製内行花文鏡で、表裏とも一部に布が付着しています。鉄剣は最大長37.5cm・最大幅4.0cm・最大厚0.6cmを測るが、身の中央で150度程の角度に折り曲げられています。なお、人骨は、壮年(30才前後)の男性と推定されています。

この古墳の築かれた時期については、埴輪や土器等がないため明らかではありませんが、古墳の構築の方法や筒形銅器が副葬されていたこと等から、4世紀後半あるいは5世紀初め頃と推定されます。
(内藤善史)



主体部(1/60)



石棺内の状況

遺物出土状況

木谷古墳群

—真庭郡久世町—

木谷古墳群は、真庭郡久世町目木の目木川左岸に位置する舌状に張り出した低丘陵上の遺跡で、眼下には「目木の条里」として著名な沖積平野が展開しています。『久世町埋蔵文化財分布地図』によると8基の古墳からなる古墳群ですが、中国横断自動車道の建設予定地内に3基の古墳が所在しているので、岡山県古代吉備文化財センターが日本道路公団から委託を受け、記録保存のための発掘調査を平成元年9月1日から平成2年5月31日まで実施しました。



木谷古墳群全景

その結果、新しく6世紀後半から7世紀初頭と推定される6基の古墳が発見されたほか、弥生時代後期に属する竪穴住居17軒、段状遺構4棟、袋状土壇11基、6世紀後半の壺棺1基、土壇墓1基、鎌倉時代や室町時代と思われる土壇墓11基、江戸時代の土壇墓67基などを検出しました。

9基の古墳はいずれも横穴式石室が内部主体ですが、羨道と玄室からなる片袖を有しているもの、袖のない平面形がばち形を呈するもの、



木谷古墳群 木谷11号墳全景

石室の中央が奥壁や入口部分よりも幅が広がって脹らんだ胴張り状になったものが存在しました。また床面に小さな円礫を敷きつめ、棺台と



木谷11号墳遺物出土状況

考えられる扁平な石を配したのも認められました。

特に木谷11号墳からは、全長約4mの小規模な石室であったにもかかわらず、大量の遺物が出土しました。土器類では須恵器が63個と圧倒的に多く、脚部と装飾群の一部を欠損した装飾付脚付子持壺もありました。装身具類としては、トンボ玉1個、小玉4個、耳環7個でした。鉄



木谷11号墳出土装飾付脚付子持壺・トンボ玉
器は、大刀1振、刀3振、刀子10本、鉄鏃78本が存在しました。

これらの出土遺物は、数次埋葬の最後の姿をよくとどめており、貴重な資料を得ました。とりわけ装飾付脚付子持壺やトンボ玉は、小規模な古墳の発掘調査によって出土した例が少ないものであり、注目されます。(福田正継)

山陽自動車道政所遺跡出土の銅釧

山陽自動車道建設に伴う岡山市加茂に所在する政所遺跡砂場調査区の発掘調査で、弥生時代後期前半の竪穴住居内から銅釧が出土しました。政所遺跡では、平成元年度の発掘調査において、宮西調査区で弥生時代後期後半の土壌内から有鉤銅釧が1点出土していますが、この銅釧は直径約6.5mの円形竪穴住居内からの出土です。住居は約1/2程が弥生後期後半の溝2条によって切られていましたが、銅釧は住居中央部に掘られた穴（内部には灰、炭が入っていました）の南側で、貼床面に付着した状態で発見されました。

この銅釧は「円環型銅釧」と呼ばれるものです。その実測値は環最大外径62mm、環最大小外径60.3mm、幅4.7mm、厚み5.0mm、重量11.41gを測ります。内側には鋳型の合わせ目が明瞭に認められ、断面形は三角形ないし菱形に近いもので、国産品と考えられます。

円環型銅釧の製品は現在のところ、国内では



政所遺跡出土の銅釧

長崎県、佐賀県、福岡県、鳥取県、大阪府の18遺跡75例と大阪府の鋳型1例が知られていますが、住居内からの出土例は当遺跡が全国で初めてです。

なお、本製品に類似するのは、鳥取県の長瀬高浜遺跡出土のものがあげられます。

(松本和男)

山陽自動車道津寺遺跡出土の重圏文鏡

山陽自動車道の建設に先立ち昭和63年から発掘調査を進めている岡山市津寺遺跡で、今年に入って古墳時代の小型銅鏡が2面あいついで出土しました。鏡が見つかったのは、足守川東岸一帯に広がる津寺遺跡のほぼ中央にあたる中屋地区で、古墳時代初頭（今から約1700年前）の竪穴住居と土壌から出土しました。大きさは6.5cm・5.9cmと小型で、いずれも鈕（つまみ）のまわりに同心円を重ねた文様を飾る重圏文鏡です。このような鏡は、瀬戸内から畿内地方を中心にいくつみつかっており、これらの地域で製作された仿製鏡と思われます。津寺遺跡では、以前にも古墳時代初頭の竪穴住居から鏡の破片が見つかり、これで3面の出土となりますが、このように集落から鏡がまとまってみつかることは、岡山県はもちろん中・四国地方でもたいへんまれなことです。古墳時代初頭の津寺遺跡は、200軒もの竪穴住居からなる大集落でした。これらの鏡は、こうした津寺遺跡



津寺遺跡出土の重圏文鏡

の繁栄ぶりを今に伝える貴重な資料といえるでしょう。また津寺遺跡の周辺でも、高塚遺跡の銅鐸や貨泉、政所遺跡の銅釧、矢部南向遺跡の小銅鐸など弥生時代の青銅器が多数みつかり、のちに全国有数の規模を誇る造山古墳を築きあげた吉備中枢部の姿をほうふつとさせるものがあります。

(亀山行雄)

普及啓発事業

I. スライド発表会

—「最近の岡山県下における埋蔵文化財発掘調査概要の報告会」—

近年、ますます増加する大規模開発に伴って埋蔵文化財の発掘調査も年々件数、規模ともに大型化の傾向にあります。この結果、県下各地では貴重な発見が相次ぎ、文化財に対する意識も高まりつつあります。当センターでは、こうした成果をできるだけ多くの人に知ってもらうため、年1回発掘調査の状況をスライドを用いて報告する遺跡の概要発表会を実施しています。本年も昨年度調査を行った数多くの遺跡の中から8遺跡を選んで、この内容、成果についての発表を関係機関の協力を得て、以下の要領で行いました。

- 1.日時 7月28日(土) 13:30~17:00
- 2.場所 岡山県立博物館 講堂
- 3.発表遺跡
 - (1)東山遺跡(岡山市)……………岡山市教育委員会
 - (2)上水島遺跡(倉敷市)……………倉敷市教育委員会
 - (3)高塚遺跡(岡山市)……………古代吉備文化財センター



化財センター

- (4)津寺遺跡(岡山市)……………古代吉備文化財センター
- (5)千引遺跡(総社市)……………総社市教育委員会
- (6)木谷古墳群(久世町)……………古代吉備文化財センター
- (7)平岡西遺跡(御津町)……………御津町教育委員会
- (8)岡山城二ノ丸遺構(岡山市)……………古代吉備文化財センター

II. 平成2年度『夏休み少年考古教室』

「夏休み少年考古教室」は、当センター開設以来埋蔵文化財の保護意識の高揚を図ることを目的として、小学校高学年の児童を対象に毎年1回開催しています。本年は、岡山市立加茂小学校の6年生32名の参加を得、8月22・23日の2日間当センターを中心に実施しました。

第1日目は、室内で考古学入門学習、土器の復元、文様の復元をしました。緊張しながらも熱心にノートを取ったり、初めての土器を両手に持ちながら復元に熱中していました。

第2日目は、屋外で前日の学習をふまえ、火おこし、土器による煮炊き、塩づくり、臼と杵を用いての脱穀と精米をできるだけ古代人と同じ方法で体験しました。また、午後からは会場

を津寺遺跡の発掘調査現場に移し、調査担当者から遺跡の説明を聞いたり、水田跡に残っている古墳時代人の足跡の“発掘”を経験しました。

以下に、児童たちの感想文(抜粋)を掲載。



開講式

日 程

第1日 8月23日(木)		第2日 8月24日(金)	
10:00	開講式	10:00	体験学習(2)
10:20	センター施設見学		・火おこし
11:10	考古学入門学習		・土器を使った塩づくり
			・臼と杵を使った脱穀と精米
			・土器を使い米、イモ等を煮る
12:00	昼食	12:00	昼食
13:00	体験学習(1)	13:00	移動
	・土器の復元	14:00	遺跡見学(津寺遺跡)
	・土器の文様復元		
15:30	ビデオ「登呂の米づくり」		
16:00	かたづけ	16:00	閉講式



火おこし

「火をおこすのはうまくいかなかったけど、たのしかった。こんな仕組みを作った人はすごいなあと思いました。」



脱穀と精米

「きねをもってトントンたたくのはかんたんだったけど、もみがらをふいてとばしておとすのは、長くやると頭がいたくなりました。」



土器の復元



土器の復元

「だんだんむ中になって、どんどんできあがってきました。むかしの人のつかっていた物をさわるのは不思議でおもしろい感じがしました。」



遺跡の見学

「昔の水田の中で、昔の人の足あとをはくつしました。私は5～6コも見つけました。私は心の中で、もしかしたら将来考古学の大学へ入っているかもしれないなと思ったりしました。」

岡山県古代吉備文化財センターの組織と職員 (平成2年度)

〈組織〉



〈職員〉

所次	長	長瀬日出明
	長	河本清
		(調査第一課長)
総務課	長	竹原成信
総務係		
課長補佐(係長)	藤本信康	
主任	平松郁男・坂本英幸	
主事	杉野正・嶋田慶彦	
	大西治郎・亀山幸治	
	渡邊徹也	
調査第一課		
第一係		
課長補佐(係長)	柳瀬昭彦	
文化財保護主査	平井勝・藤田耕平	
文化財保護主任	桑田俊明・島崎東	
文化財保護主事	宇垣匡雅・川崎新太郎	
	小松原基弘	
主事	横山定・椿真治	
	村田秀石・竹原伸之	
	氏平昭則	

第二係

課長補佐(係長)	下澤公明	
文化財保護主査	山磨康平・福田正継	
	栗原健一	
文化財保護主任	内藤善史	
文化財保護主事	松岡浩太郎	
主事	池上博・石黒勉	
調査第二課		
課長	葛原克人	
第一係		
課長補佐(係長)	井上弘	
文化財保護主査	二宮治夫・林久夫	
文化財保護主任	光永真一・井上篤	
	源俊二	
文化財保護主事	広瀬隆明・安井悟	
主事	大橋雅也	
第二係		
係長	高畑知功	
文化財保護主査	吉田正士・中野雅美	
文化財保護主事	福田計治・山本了峰	
	亀山行雄	
主事	古市秀治・久保恵里子	
第三係		
係長	岡田博	
文化財保護主査	野上和信	
文化財保護主任	栗尾昭和	
文化財保護主事	片山泰輔	
主事	澤山孝之・柴田英樹	
調査第三課		
課長	正岡睦夫	
第一係		
課長補佐(係長)	松本和男	
文化財保護主査	出原恒房・江見正己	
文化財保護主任	平井泰男・川崎肇	
文化財保護主事	平松義則・佐守学	
主事	横山伸一郎	
第二係		
係長	浅倉秀昭	
文化財保護主査	窪田廣志・古谷野寿郎	
	岡本寛久	
文化財保護主任	吉久正見	
文化財保護主事	長川優	
主事	弘田和司・森宏之	
	守屋佳慶	

編集・発行

岡山県古代吉備文化財センター

所在地 〒701-01
 岡山市西花尻1325-3
 電話 (0862)93-3211

●交通案内

- ・JR山陽本線庭瀬駅下車タクシー10分
- ・JR吉備線吉備津駅下車徒歩25分
- ・JR岡山駅下車岡電バス岡山駅前より神道山行終点下車徒歩5分

